

平成27年度事業別評価調書 (チェックリスト)

整理番号	106	事業名	交付金事業 (河川)		補助 単独	地区名 (事業箇所名)	一級河川 東根川	関係 市町村名	伊達市	担当部 (局) 課名	土木部 河川整備課	
評価の対象となる理由	第1項第4号:評価実施から5年を経過し継続中の事業					前回 (平成22年度) 評価時の対応方針	委員会からの提言: 事業継続 付帯意見: 遊水池は増水時に洪水を防止するものであるが、平常時の利活用方策も検討すること。			県の対応方針: 事業継続 遊水池の利活用については、これまで地域の方々や地元市町と協議しており、今後とも、管理の面を踏まえ、平常時の利活用方策を検討してまいります。		
事業根拠法・要綱等の名称	河川法第9条第2項											
事業概要	[事業目的及び全体計画]						事業を巡る社会経済情勢 (特記すべき事項)					
	(1) 事業目的 昭和61年8月洪水をはじめ、度重なる洪水により浸水被害が発生しているため、河積の拡大を行い、沿川の人家等への浸水被害の防止を図る。											
	(2) 全体計画 延長: L=7,696m [ ]は、当初計画時 工種: 掘削工、堤防工、護岸工、遊水地等 < >は、H22評価時											
	事業の採択年度	S49	完成目標年度	[H35] <H35> H40	用地着手年度	S49						
概要	事業費 (うち用地費)	7,000 (2,333)	これまでの投資事業費合計	4,206 (1,594)	左の財源内訳又は負担割合		これまでの年度別投資実績 (27年度は見込額である。)					
					国 1/2 県 1/2 市町村 その他	~24年度	25年度	26年度	27年度			
進捗率	事業費ベース	60.1%	用地費ベース	68.3%	その他 ( )		%					
事業の進捗状況	[整備の状況] 東根川は、阿武隈川合流部から大立目橋まで堤防が完成しており、支川古川は、東根川合流部から古川端橋まで改修済みとなっている。 遊水池については、左側一部 (C1池) をH15に、右側の遊水地 (A池) もH19に供用を開始している。						事業に関する社会経済情勢の変化					
	[事業実施上の課題や問題点、今後の事業見通し] 遊水地内や支川古川橋梁部の用地取得に時間を要したことで事業進捗が遅れが生じていたが、昨年度までに見通しがついたため、引き続き東根川及び支川古川の未整備区間の掘削・堤防による河道改修と遊水地の整備を行い、平成40年度の完成を目指す。 遊水池の利活用については、利活用懇談会をこれまでに7回開催し、検討を重ねている。											
	[関連事業の進捗状況] 該当事項なし											
みなし進捗率 = (B) / (A) = 80% > 70%		投資済事業費 (B) = 4,206 (百万円)				事業の進捗状況						
みなし事業費 (A) = $\frac{\text{全体事業費 } 7,000 \text{ (百万円)}}{\text{全体工期55年}} \times \text{経過年数41年} = 5,218 \text{ (百万円)}$												
評価		A、 B、 C				事業の進捗状況						
評価		A、 B、 C				事業の進捗状況						

(1) 現在の状況  
流域内の開発により市街化が進み、沿川に人家が密集しているため、台風や豪雨による洪水から市街地部の基大な浸水被害を防止するうえで、河川改修の必要性は依然として高い。

(2) 変化の有無 有・無

(3) 変化の内容

(4) 地域の協力体制等  
東根川広域基幹河川改修事業整備促進協議会を中心に事業推進に対して協力的であり、早期完成を望んでいる。また、「古川を美しくする会」が沿川の環境美化活動を積極的に行うなど、地元住民の河川に対する関心は高い。

[事業に関連する評価指標等]  
(1) 主な評価指標の変化  
過去の浸水実績

年 月	原因	浸水戸数 (戸)	浸水面積 (ha)
S57.9	台風18号	88	171.1
S61.8	台風10号	934	385.8
H1.8	台風17号	7	37.0
H10.8	豪雨	37	80.5
H14.7	台風6号	18	40.6
H18.10	豪雨	—	2.5

(2) その他特記すべき事項  
特になし

[環境への影響等]  
希少野生動植物の情報に基づく対応 実施・未実施 ( )

(1) 環境への影響内容とその対策  
河川水位が低い時期でも魚が生息できるように、水の流れを確保するなど、生態系に配慮した多自然川づくりを推進する。

(2) その他特記すべき事項



(別紙)

## 費用対効果分析

交付金事業（河川） 一級河川 東根川

$$\frac{\text{効果（便益） B}}{\text{費用 C}} = \frac{\text{B①} + \text{B②}}{\text{C①} + \text{C②}}$$

### [費用項目]

- C①：治水施設完成に要する事業費（施設の建設費、用地費、補償費）
- C②：評価対象期間内での維持管理費

### [効果項目]

- B①：氾濫防止便益
  - ・河川改修により氾濫によって生じる被害（家屋や土地、農作物、公共土木施設および氾濫によって間接的に生じる営業停止などの被害額）
- B②：評価期間末における施設の残存価値

### [考え方]

- ・現在（平成26年度）を基準年度として工事期間と完成後50年間に生じる効果額、費用を算出し比較する。
- ・維持補修費は、各年事業毎の0.5%を維持管理費として事業完了後の50年分まで毎年見込み、これを割引率により現在価値化して計上している。
- ・便益は、整備された箇所から事業費に相当する便益が順次発生するものとし、さらに河川事業の耐用年数から事業完了の50年間発生する便益を割引率により現在価値化して計上する。

### 計算例

$$\frac{210,665\text{百万円} + 253\text{百万円}}{10,990\text{百万円} + 1,356\text{百万円}} = 17.08$$